

リストが減った？

9月初めにシューマンのピアノ協奏曲を演奏しました（鈴木秀美／指揮、パシフィックフィルハーモニア東京）。久しぶりのシューマンのコンチェルトでしたので、あらためて楽譜を見直しながら、このコンチェルトの計り知れない奥深さに圧倒されました。

思い返せば2006年から始めた「12年間・24回シリーズ」は、シューマン作品が軸でした。シリーズ第1回のプログラムではシューマンの《幻想曲》を演奏しまし

たが、そのシューマンの《幻想曲》はリストに献呈され、その返礼として、後にリストは《ロ短調ソナタ》をシューマンに献呈しました。今回のシューマンのコンチェルトを機に、私のシューマンへの想いは一気にリストへと広がり、弾いたレパートリーなどを思い返していたのですが、「そう言えば私は、いつリストから離れてしまったのだらう、10年以上もリストを弾いていない？」と気づきました。私が演奏活動を始めた頃は世にリストが溢れていました。もちろ

ん私も頻繁にリストの作品を演奏していました。《皇帝》やチャイコフスキーのコンチェルトは常に人気がありますが、当時はリストのピアノ協奏曲第1番も、ラフマニノフやショパンに並んで演奏されることの多い人気曲でした。ソロ曲なら《ロ短調ソナタ》《超絶技巧練習曲》《巡礼の年》…など、案内チラシでもリストをしょっちゅう目にしましたし、私はCDのため《ロ短調ソナタ》を2回も録音したほどでした。

リスト自身は、初めてパガニーニの演奏を聴いたとき「ピアノのパガニーニになる」と叫んだらしいのですが、その言葉通りピアノリストとして頂点に立ちました。作品には華麗な超絶技巧が詰め込まれ、圧倒的な魅力が詰めで、リスト自身が演奏したコンサートでは、華麗な容姿と凄まじいピアノに興奮した女性が失神することもある。そういう素敵なリストの作品ですから、演奏をすれば、リスト作品が持つ特別な爽快感に包まれます。最後のコーダで達成感を感じることもあります。若い頃、掛け値なしに華麗なリストの世界にとり憑かれていましたが、震災やコロナ禍の世界を過ごしているうちに、なんとなくリストを弾かなくなっていました。自然災害など、世の中の不条理を嘆くつもりはありませんが、今また「リストを弾いてみようかな」と考えながら、まだしばらくは弾かないような気もする。不思議なことです。☑

小山実稚恵 — 150 — ピアノと私

公演情報

府中の森芸術劇場開館35周年記念
どリーむコンサートVol.134

ロマンの彼方へ

9月23日（水・祝）14:00

府中の森芸術劇場どリーむホール

指揮：大友直人

ピアノ：小山実稚恵

東京交響楽団

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番

問い合わせ：チケットふちゅう

☎042-333-9999

小山実稚恵 ピアノ・リサイタル

10月4日（日）13:30

能代市文化会館大ホール（秋田）

シューベルト：

即興曲より 作品142-2、作品90-2

ピアノ・ソナタ第19番、第21番

問い合わせ：能代市文化会館

☎0185-54-8141

小山実稚恵 ピアノ・リサイタル

10月12日（月・祝）14:00

ミズ ウェルビーホール（佐賀市文化会館）

中ホール

シューベルト：

即興曲より 作品142-2、作品90-2

ピアノ・ソナタ第19番、第20番

問い合わせ：佐賀RO♪ON事務局

☎0952-26-2361

KOYAMA MICHIE 東京藝大卒、同大学院修了。1982年チャイコフスキー国際コンクール第3位。85年ショパン国際ピアノコンクール第4位。「12年間・24回リサイタルシリーズ」（2006～17年）や「ベートーヴェン、そして…」（19～21年）は、その演奏と企画性で高い評価を受けた。2022年より、サントリーホール・シリーズ「Concerto〈以心伝心〉」に続き、ソロ・リサイタルのシリーズ〈未来永劫〉を開催する。ショパン、チャイコフスキーの二大コンクールなどの審査員も務める。17年度紫綬褒章を受章。仙台での「こどもの夢ひろば」のゼネラル・プロデューサーを務める。